

# 第1章 旭日竜大型50銭銀貨 明治3～4年の分類

日本貨幣カタログの分類  
01 - 13  
日本の近代銀貨(50銭銀貨の部)  
P47-68

## 1-1. 菊紋面、年号面の刻印の種類と組み合わせ変化

旭日竜50銭銀貨は旧50銭銀貨とも称され、近代貨幣として日本で初めて量産された最も高額の補助貨幣です。大型タイプ(明治(以下Mと表記)3、M4)と

小型タイプ(M4)があり、本章では初期タイプである「大型タイプ」の表裏刻印と一般に見られる基本的な組み合わせを中心に解説します。

### 1-1-1 表裏刻印の組み合わせに見られる基本刻印タイプ(基本型)4種

大型タイプには菊紋面2種類、年号面4種類の刻印が使用されています。一般に見られる基本刻印の組み合わせを製造の流れに沿って記載すると大よそ次のようになります。

- (1) M3大型・粗葉脈
- (2) M4大型・前期・ハネ本
- (3) M4大型・後期・止本・小ウロコ
- (4) M4大型・後期・止本・大ウロコ

単に年号に沿った仕分け分類だけ出来ていればOKということなら、上記の基本型分類表示で差し支えありませんし、オークションや店頭販売ではこのような簡潔な分類表示が一般的ですので覚えておいて下さい。しかし、手変り分類の観点からは、刻印の特徴が明確になるように分類表示を行う必要があります。出来るだけ正確に刻印の特徴を表示すると、前記基本型(1)～(4)は、次のようになります。

尚、詳細は順次解説致します。

- (1) [一葉密・]粗葉脈+不明瞭ウロコ竜
- (2) [一葉密・]粗葉脈+明瞭[縦]小ウロコ竜・ハネ本
- (3) [一葉粗・]密葉脈+明瞭[横ウロコ&]腹ウロコ竜・止本
- (4) [一葉粗・]密葉脈+明瞭[横ウロコ&]腹大ウロコ竜・止本

先ず、上記4種の基本刻印タイプの拡大写真を示します。どれも一般に存在する基本型ですので、初心者の方は先ずこの基本刻印タイプ(基本型)4種の収集から始めてみましょう。各タイプにこだわらず、旭日竜大型50銭銀貨を一枚購入して、写真と見比べながらじっくり眺めてみて下さい。その第一歩が、手変り収集の世界への扉を開き、新たな収集の楽しみへ誘ってくれることでしょう。

